

# 新選組中日誌

## 『新選組始末記』対戦報告&作戦研究

本稿はウォーゲーム専門 SNS「Must Attack」内で発表された、varon 氏の日記を、ご本人の許可を得て再構成したものです。どうしても勝てない新選組が勝利するまで、そしてその新選組の作戦に対して勤王派がどう立ち向かうのかが、生々しく描かれています。これから『新選組始末記』を始めようという方は必読ですよ！



×月×日 佐幕派●

基本的に新選組は戦力が大きく、タイマン勝負ならまず負けません。そこで序盤は戦力の優位に物を言わせてマップ南半分を確保、それから北上するのが定石のように思われます。

しかしゲームが進むと勤王側のユニットが増え始め、恐怖の「局中法度」が始まります。これが厄介な判定で、勤王思想を持つ隊士が裏切ったり、裏切り者を説得するのに人手を割かれたりと、次第に数的優位が覆されていくわけです。また、裏切り者御陵衛士が高台寺を拠点とすることで、それまで比較的安地帯だった南部が一転、激戦地となります。この激戦地が壬生の屯所まで迫ってくると、新選組は移動の選択肢が奪われていくので、これが辛い！刻を同じくして、北部に薩摩藩士が登場、勤王側支配エリアが次第に拡大していき、勝利得点も勤王側に傾いていき、ついには壬生周辺をがっちり固められて(ー)、あえなく途中投了になりました。主導権取得による移動の後先の影響が大きい気もしますが、それにしても新選組が勝てない！

×月×日 佐幕派△

京の都に雪が降る……今日も新選組は勝てませんでした。やり方が悪いのかルールを間違えているのか。うーん、どうにも勝てない新選組です。

序盤は得点を重ねて二十点オーバー。中盤から数の優位を失って、後半の三回で支配数が逆転するということいつものパターンで、最後はきっかり引き分けになりました。

これまでの反省を生かし、中盤からは主導権を取ったら後手を選択して、のこのこ出てきた勤王派

を各個撃破する待機作戦を実施。しかし手練れの相手がそんな手に乗ってくれるはずもなく、圧力をかけただけで終わってしまいました。

『新選組始末記』は状況に応じて先手、後手の選択がとても重要で、まだその見極めができていないのかもしれない。

局中法度では、近藤、沖田をもって確実に切腹に追い込むのが、御陵衛士をつくらせない、有効な手のように思います。

×月×日 佐幕派○

やはり新選組は強かった！

これまでの失敗を糧に、新たに作戦を組み直し。

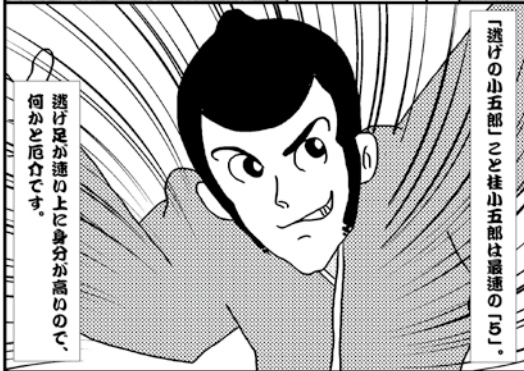
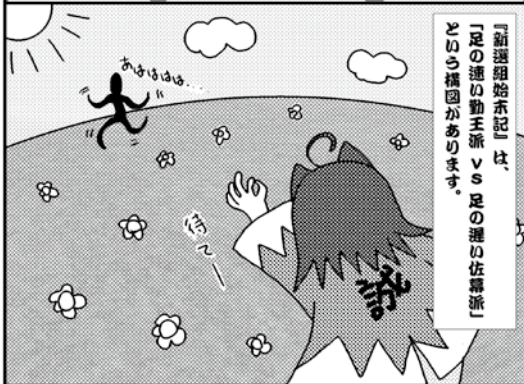
比較的、移動しやすい南半分を確保して競り合うという形を目指していましたが、これがどうにもいけません。高台寺を拠点とする勤王派ユニットが動き出し、さらに数的優位まで失って、南と北から押え込まれて敗北……というパターンが多かったです。二十点オーバーしても、後半の巻き返しは壮絶。そこで南北ではなくマップを東西に分けて考え、そこで南北ではなくマップを東西に分けて考え、面倒な高台寺や遠く離れた聖護院は最初から捨て、最後まで数的優位を保てる西側——薩摩屋敷方面を主戦場にしました。これには、勤王派の参内を阻み、自分だけ参内しようという狙いがあります。

これが大成功！最後まで二十点オーバーを維持し、勤王派に一度も参内もさせないという完璧な展開で佐幕派が勝利しました。

このゲーム、足の遅い新選組 vs 逃げ足の速い勤王派という側面があります。そのため、「一撃必殺の新選組」が何となく再現されたり、逃げ遅れた勤王志士に数人がかりで襲いかかるという、何ともそ

# 新選組始末記のツボ

—その壱—  
「逃げるキンノーと追うサバク」



れっぱい展開になります。

さてさて、この東西展開を行うと薩摩屋敷方面では先手を、下京方面では後手を取りたくなります。そのため、常にどちらかの方面は苦しくなるのが何とも嫌らしい。先手を取るか後手を取るか？

ユニットの配分をどうするか？ 毎ターン緊張の連続です。またエリア支配を重視するのか、それとも戦闘を優先するのか、ターン毎に判断を求められます。この見極めを間違えると大変なことになります。

もつとも同じことが勤王派にも言えるわけで、お互い神経をすり減らしながらのプレイになります。また敵のユニットでは移動を妨害されないため、まるで「大西洋戦争」で見られる北海とパレンツ海におけるジレンマが生まれます。後方を取られても敵の支配を奪うのか、それとも固く守るのか？

この見極めを間違えると大変なことになります。もつとも同じことが勤王派にも言えるわけで、お互い神経をすり減らしながらのプレイになります。また敵のユニットでは移動を妨害されないため、まるで「大西洋戦争」で見られる北海とパレンツ海におけるジレンマが生まれます。後方を取られても敵の支配を奪うのか、それとも固く守るのか？

れまで多くの「太平記システム」ゲームが生まれましたが、個人的にこのゲームが一番かな？

新選組で勝てる方法を見つけたので、今度は勤王派で勝てる方法を見つけなくては！

### ×月×日 勤王派 ●

今度は勤王派に挑戦。

序盤は、うまい具合に佐幕派の得点を抑えることができ、まずまず。となると早めに反攻に転じたいのが人情というのですが、主導権を取れないことにはどうしようもありません。おまけに裏切り者が出ないといういやーんな展開に。

ようやく主導権を取り、その時は北部での反攻のため、先手を選んだわけですが、これがどうにも失敗だったようです。その後もなかなか後手になるこ

とができず、反撃は不発に終わりました。

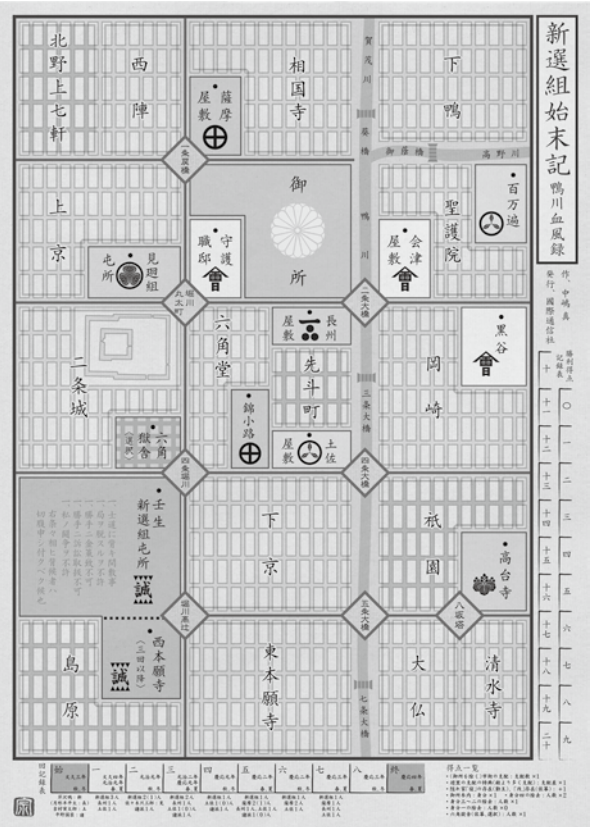
北部の支配を確立し、いざ本格的な反撃を！ と思った時には最終ターン。しかも点差は十五。こんなと**気合いで勢力範囲を広げるとともに、身分の高い隊士の首を狙う**しかありません。

双方とも気合いが入りまくり！ 六の目を連発する大激戦が展開され、終わってみればあと一歩及ばずの四点差で敗北でした。最終ターンで十一ポイント挽回したものの、負けは負けです。この反撃があと一ターン早く始まっていれば……。

未だ勤王派の勝ち方が見えてきません。局中法度や主導権など、運に恵まれないと勝てないのでしょうか？ いやいや、まだ気づいていない「何か」があるはずだ……。

運の要素がないとなかなか勝ちが見えてこないの

新選組始末記 鴨川血風録



ですが、多分まで気づかない何かがあるでしょう。

×月×日

**岡崎に隠れ家をつくって全軍をこもりせる、という作戦はどうだろうか？**

こうすると分断されているという弱点が補えるので、後手を取った時に集中運用ができます。

しかし、先手でのベストなムーブがまだ見つかりません。後手頼みでは不利は免れないし、辻のうまい使い方が見つけれればなあ。

×月×日 佐幕派○

「佐幕」の意味を存じない方がいたので説明すると、「佐」には「助ける」という意味があり、つまり「幕府を助ける」ということです。

**れば一ターンで勤王派に取り返されてしまいます**

—そのくらい、後半の勤王派は手強いのです。特に厄介なのが参内。そこで佐幕派は、後半は参内対象エリアの保持を優先することにします。

第一ターンはマイナス一点という最悪のスタート。勤王派プレイヤーも研究を重ねている！

でも少しずつ勢力を拡大し、第五ターンあたりで二十点に到達。こちらのダイスの目も悪かったけれど、勤王派もことごとく局中法度の判定の失敗するなど、双方ともにダイス運は低調です。

佐幕派アドバンテージのまま最終ターンへ突入。

一気に十五点を取られて肝を冷やしましたが、最後まで参内させなかったことが効いて辛くも逃げ切りました。

「参内阻止」に重きを置くという、こちらの意図

ようやく佐幕派の勝ち筋が見えてきましたので、今回は勤王派の参内阻止をテーマにプレイ。

そのために優先するのは、参内エリアの維持と奪取。翻って、これは勤王で勝つためにはどうしたらいいかという逆説的アプローチです。

通常、『新選組始末記』では佐幕派の得点が途中で二十点を超えるでしょう。しかしそれは安全圏ではありません。早ければ二ターンで、下手をす

を読み切れなかった勤王派が、そこに兵力をつぎ込んでこなかったことが勝因でした。勤王派が参内していたら、多分負けていたでしょう。

先攻、後攻の順番を何度か間違え、危うい状況に陥りました。後手は後だしができるので一見有利ですが、先手は辻を使って移動範囲が広がるというメリットがあります。攻める時は手を広げやすい先手が有利、といった具合に、状況に応じた順番選択が求められます（守る時は後手が有利）。

また五条大橋、四条大橋を取れるのなら、先手有利かもしれません。特に五条大橋を使えるようになると、勤王派はかなり有利になります。それ以外の辻しか使えないなら後手のほうが有利でしょう。

**どこかに有利なエリアと不利なエリアができる仕組みになっているので、その時々で勝負をかけるエリアを選択していく必要があります、その選択がとても楽しい。**

今のところ隠れ家をつくるのに最適なのは岡崎。

ここに長州を入れるのがベストではないかと思えます。勤王側は裏切りを引き起こす「織」の能力の高さと、移動力である「文学」の高さが有利な点なので、この二点を生かすなら、このエリアが一番ではないかと考えています。長州屋敷はあまりに移動に不便で土佐藩と連携を取りづらい位置にあり、それを補う意味があります。

勤王側は、**兵力が逆転する五ターンくらいから支配数差を縮めて参内を可能にすれば、自発的に勝てる可能性が見えてきましたね。**そこから先は裏切りや主導権の動向次第でしょうか？

まだまだ詰めるところがあるようで、しばらくは楽しめそうです。